

普及活動情勢報告（平成29年10月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

ユズの労働力確保対策について ～土佐山柚子生産組合の中央研修会～



「このほ場の管理は？」
地図を見ながら皆で確認

9月22日、土佐山柚子生産組合の中央研修会が52名の参加で開催されました。

普及所からは労働力確保対策として、共同防除に関するアンケート結果の報告と、そのアンケート結果に基づくグループワークを行いました。

アンケートでは、約半数の方が共同防除に「興味ある」と回答された他、3地区で取り組む意向が確認されました。今後はその実施状況を追いかけていきます。

また、労働力確保対策として、他にもユズヘルパー募集の新聞折り込みの実施や、‘土佐山ゆずファンづくり’のための収穫体験ツアーの企画など、関係機関および生産者が一致団結して取り組んでいきます。

露地ショウガの安定生産にむけた技術交流 ～JA高知市丸朝生姜生産組合青年部～



生産ほ場を見学する青年部の生産者

9月26日、JA高知市丸朝生姜生産組合青年部（以下、丸朝青年部）はJA四万十生姜生産部会との交流会を開催しました。お互いの生産ほ場を巡回して栽培技術等について情報交換するとともに、室内検討会ではお互いの技術上の課題（労力・土壌病害）や将来の方向性などを出し合って意見交換しました。

普及所は、丸朝青年部の意見をとりまとめて発表するとともに、低エタノール土壌還元消毒に関する情報提供を行いました。

今後も、他地区との技術交流会や栽培技術向上研修会の開催を支援します。

女性農業者が環境制御技術について視察研修 ～はちきん農業大学～



環境制御技術で栽培中のほ場見学

9月29日、はちきん農業大学の地域講座において、環境制御技術を学ぶために、農業担い手育成センターへ視察研修に行くバスツアーを企画しました。

男性1名を含む10名の参加があり、センターの職員から、環境を制御する様々な技術や各作物での試験成績について丁寧な説明を受けました。さらに、午後は実際のほ場の環境制御装置を視察しました。参加者からは「新しく始める品目を探していたので、大変参考になった」、「とても丁寧に教えていただき、理解しやすかった」など好評でした。

普及所では来年度の講座内容を充実させて、はちきん農業大学受講生の資質向上を支援していきます。

新たな天敵で黄化えそ対策！ ～リモニカスカブリダニの検討～



天敵を放飼中

JA高知春野きゅうり部会では、黄化えそ病を伝搬するアザミウマ対策として天敵のスワルスキーカブリダニとタバコカスミカメを併用していました。しかし、この二種類だけでは防除効果が安定しない場合があるため、10月6日から、低温でも比較的活動ができるリモニカスカブリダニの実証試験を生産者のほ場で開始しました。

放飼時は、生産者から「スワルより大きい気がする。」「ボトルが大きくて振るのが大変かも。」といった反応がありました。

今後は、定期的に天敵とアザミウマの頭数推移、黄化えそ病の発生を調査していきます。

来年に向けて、今作を振り返ろう ～JA高知市稲作部大津支所出荷反省会～



試験の結果を聞く生産者

10月20日に、JA高知市稲作部大津支所の出荷反省会が行われ、20名の農家が参加しました。JAからは米穀検査の結果と販売情勢を、普及所からは、今年度実施した県育成新品種「高育76号」の栽培試験の結果を報告しました。生産者からは、「高育76号」に関して、「育苗センターの苗は十分確保できるか」、「品種名は決まったか」などの質問があり、来年の栽培について検討している様子でした。他にも「今年はカメムシが異常に多い」などの意見が出ました。

普及所では今後も米産地の振興に向けて支援を行っていきます。